

剪定等により発生する枝葉の堆肥化に関する調査 (平成28年度～30年度)

1 調査目的

公園や緑地、庭園等の植栽木や街路樹、竹林の管理などにより発生する剪定枝葉等の処分は、多大な労力と経費を要する厄介な問題であります。

植木センターでは、施設内の植栽木の管理により発生する剪定枝葉のほとんどを粉碎処理し堆肥化して、土壌改良やマルチングの資材として活用しております。

粉碎処理は、剪定枝葉の発生に合わせて順次行いますので、粉碎したチップは多樹種が混在した状態で集積し、随時、攪拌し完熟させています。

したがって、堆肥化したチップには、土壌改良材としての効果の異なる成分が混在していることが考えられます。

そこで、剪定枝葉等を針葉樹、広葉樹、竹類などに区分して粉碎処理し堆肥化して、それぞれのチップの土壌改良材としての特性を明らかにし、剪定枝葉等の有効活用が促進されることを目的として調査を行っております。

2 調査の現状（平成28年度）

(1) チップの作成（平成28年2月～3月）

剪定枝葉を次の4種に区分して粉碎処理し、ベニヤ板で仕切った集積場に集積しました。

(数量は粉碎したチップの体積)

① 針葉樹（粉碎・集積日：H28.2.25）

ヒマラヤスギ約3000、カイヅカイブキ約1200、クロマツ約200、イヌマキ約3600

② 広葉樹（粉碎・集積日：H28.3.17）

キンモクセイ約3000、サザンカ約3000、ウメ約3200

③ タケ類（粉碎・集積日：H28.2.18）

マダケ約4500、モウソウチク約4800

④ 針葉樹+（粉碎・集積日：H28.2.25）

上記の針葉樹と同樹種をほぼ同量（切返し時に米糠を混入（2回））

(2) 発酵の促進

① 切返し

適度な水分量と通気を確保して発酵を促進するために適宜切返しを行うとともに、発酵状況を推測するため定期的に内部温度を測定しました（グラフ参照）。

② 米糠混入

針葉樹+には、発酵促進に効果があるとされる米糠を2回（3月28日、5月2日）混入しました（各600）。

③ その他

切返し以外は、できる限り手間をかけずに放置することとし、ビニール等で覆うこともせず、風雨にさらした状態で管理しました。

